

◆◆◆ 平成19年梅雨入り・明けのまとめ

気象庁では、毎年、春から夏にかけての実際の天候経過を総合的に検討し、各地の梅雨入りと梅雨明けの確定及び梅雨時期の特徴についての事後のまとめを行っています。9月3日(月)に発表された、平成19年の梅雨についてとりまとめ結果は以下のとおりです。

※梅雨入り

かなり遅い梅雨入りとなった地方が多かった。九州南部で平年並、沖縄で遅い他は、かなり遅い入りとなった。

※梅雨明け

南西諸島と九州南部では平年並の梅雨明けとなった。その他の地方は、遅い梅雨明けとなり、関東甲信、北陸、東北ではかなり遅かった。

※梅雨前線

梅雨前線は、6月中旬にかけて南西諸島から本州の南海上に位置することが多く、活動が活発になった。その後は本州付近に停滞することが多かった。

※降水量

梅雨時期の降水量は、東日本から西日本の太平洋側や東北南部で多く、九州南部ではかなり多かった。奄美、九州北部、東北北部では少なかった。6月中旬にかけて梅雨前線が本州の南海上から離れて停滞することが多く、四国や九州北部の降水量がかなり少なかった一方で、沖縄では降水量が平年より多くなった。7月は梅雨前線が本州付近に停滞し活動が活発になったことや台風第4号の影響により、東日本から西日本の太平洋側で降水量がかなり多くなった。

※日照時間

梅雨期間中の日照時間は、6月にかなり多い地域があったが、7月は少なく、かなり少ない地域もあった。

平成19年梅雨入り・明け(事後検討結果)

地域名	梅雨入りと階級(*1)			梅雨明けと階級(*1)			梅雨時期の降水量 平年比と階級(*2)
	事後検討	当初発表	平年	事後検討	当初発表	平年	
沖縄	5月16日ごろ(+)	5月16日ごろ	5月8日ごろ	6月21日ごろ(0)	6月21日ごろ	6月23日ごろ	105%(0)
奄美	5月26日ごろ(+)*	5月26日ごろ	5月10日ごろ	6月28日ごろ(0)	6月28日ごろ	6月28日ごろ	82%(-)
九州南部	6月1日ごろ(0)	6月1日ごろ	5月29日ごろ	7月18日ごろ(0)	7月18日ごろ	7月13日ごろ	142%(+)*
九州北部	6月13日ごろ(+)*	6月13日ごろ	6月5日ごろ	7月23日ごろ(+)	7月23日ごろ	7月18日ごろ	86%(-)
四国	6月13日ごろ(+)*	6月13日ごろ	6月4日ごろ	7月23日ごろ(+)	7月23日ごろ	7月17日ごろ	125%(+)
中国	6月14日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月6日ごろ	7月23日ごろ(+)	7月23日ごろ	7月20日ごろ	104%(0)
近畿	6月14日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月6日ごろ	7月24日ごろ(+)	7月24日ごろ	7月19日ごろ	110%(0)
東海	6月14日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月8日ごろ	7月27日ごろ(+)	7月27日ごろ	7月20日ごろ	126%(+)
関東甲信	6月22日ごろ(+)*	6月14日ごろ	6月8日ごろ	8月1日ごろ(+)*	8月1日ごろ	7月20日ごろ	115%(+)
北陸	6月21日ごろ(+)*	6月21日ごろ	6月10日ごろ	8月1日ごろ(+)*	8月1日ごろ	7月22日ごろ	104%(0)
東北南部	6月21日ごろ(+)*	6月21日ごろ	6月10日ごろ	8月1日ごろ(+)*	8月1日ごろ	7月23日ごろ	134%(+)
東北北部	6月29日ごろ(+)*	6月21日ごろ	6月12日ごろ	8月11日ごろ(+)*	8月1日ごろ	7月27日ごろ	77%(-)

(*1) 梅雨の入り・明けには平均的に5日間程度の遷移期間があり、その遷移期間のおおむね中日をもって「**日ごろ」と表現した。記号の意味は、(+)*: かなり遅い、(+): 遅い、(0): 平年並、(-): 早い、(-)*: かなり早い、の階級区分を表す。

(*2) 全国153の気象台・測候所等での観測値を用い、梅雨の時期(6~7月。沖縄と奄美地方は5~6月)の地域平均降水量を平年比で示した。記号の意味は、(+)*: かなり多い、(+): 多い、(0): 平年並、(-): 少ない、(-)*: かなり少ない、の階級区分を表す。

※ 階級区分について

1971~2000年における30年間の観測値をもとに、以下のように振り分けている。

	33%		33%	33%	
	10%	23%		23%	10%
梅雨入り・明け	かなり遅い	遅い	平年並	早い	かなり早い
降水量	かなり多い	多い	平年並	少ない	かなり少ない